

「歴史に『真理』は少ない」

神 示

人類が学び 知り得た歴史に 「真理」を読み取ることは難しい

人類は 運命実体で回る この世の真実を見ずに

知識と努力で生きている

真実は 万物の運命が重なる 時代の流れの中に

人類は有限の時代を生きる

知り得たことも その時代の一端にすぎない

信者に申す

有限の時時代を「生きる」 人生の真実に気付いて

「運命」に重なる「人生」を歩むべし

家族で「教え」を学び 正しく関わることで

「運命」に導かれた人生を歩み抜ける

神見るに 人類は

この世の仕組み 「人たる人の心人生」を知らずに生きている

努力が生かされず

「実体」に心人生のまれて 悩み 苦しむ人人々が多い

神が世社会に示す「教え」を 家族で学び

家庭に生かす努力を 家族で実践

自然と 家族の心運命実体は重なり

愛心あいしん 愛語で出会いを深めて行く

家族の運命実体は 自然と重なり 補い合って

六つの花びらが咲き始める

家族の心愛心が重なり合うことで

事故 災難なき日々いちにちが送れるのである

我が「人生」と家族の「人生」が 重なり 補い合って

有限の時時代を 人人間は生きている

人類は、長い歴史を重ねて、今日を迎えています。しかし、人々が積み重ねてきた歴史に、真理を読み取る要素は少ないと、神は言われます。

そもそも、歴史とはいえ、過ぎた事実が全て分かるわけではありません。知り得たことも、一端にすぎないのです。そして、さまざまな経験から、こうすればこうなると思いついても、必ずしも同じ結果になるとは限らないのが現実です。

それは、運命実体で回るのが、この世の真実だからです。多くの人々がそれを知らず、知識や努力で何とかなると思っています。しかし、この世は、万物の運命が重なる時代の流れの中にあります。時代の変化の中で、有限の時を与えられて生まれてきたのが、一人一人です。

ですから、気付かなくてはいけないのは、人生は限りある時と認識し、与えられた運命に重なって生きる大切さです。運命の力を余すことなく使えたなら、誰もが必ず満ち足りた人生が歩めます。そのためにも、家族で教えを学び、教

えに沿って関わり合うのです。すると、各自の力が引き出され、限られた寿命をより良いものとして全うできます。

そのような生き方ができない人が多いのは、運命実体で回るこの世の仕組み、運命に重なって生きる人たる人の心を知らないからです。あふれる知識、情報に惑わされ、自分の持ち味、良さを生かすどころか、方向違いの努力をするため、それが実らず、報われず、実体にのまれて、悩み、苦しむのです。

だからこそ、神が表される教えに家族で触れて、家庭生活に生かす努力をするのです。一人一人が、親らしく、子供らしく、祖父母らしく関わることです。家族で教えを実践すれば、自然と心が重なって、愛心、愛語のあふれる環境となります。運命実体が重なり、補い合って、調和の取れた毎日が送れます。

そして、持っている力を多くの人々の役に立てる生き方ができます。すると、有限の歩みの中で心の道に良いものを残し、その家は栄えていくのです。

「歴史に『真理』は少ない」

神 示

多くの人が 知識を学び 道理を想像して 「人生」をゆく
なれど 常に社会は不安を[あおり](#)

争いを繰り返す

歴史の真実に気付いて

「教え」を学び 深めてごらん

心の動きは安定し

運命の真実「真理」が見えてくる

その時 人の心は安定する

信者に教えん

時代には流れがある

人類は その流れる方向を知ることが必要

知って 「運命」に導かれた人生が始まる

その時 「生きる」環境は 「運命」に重なっている

時代の力を受けて「生きる」人は

「運命」の力に導かれ 「生きがい」味わう人生が歩める

今日 社会には 時代の力が大きく働いている

流れに乗れるよう 「実体」の修正が必要

神が世に示す「教え」に気付きを得ることで

時代の変化に対応できる

変化に起きる 全ての出会いが活きるように

「教え」を学ぶ

社会は 常に運命が重なり 補い合って

調和に向かって流れる――

社会の真実「真理」を知って

社会の変化に対応できる信者であれ

人類の歴史、またそこから得た数々の経験は、参考にこそなっても、ほとんどが真理ではありません。さまざまな経験から積み重ねた知識は、不確かなものも多く、頼り過ぎてはいけません。

しかし、社会の人々は、知識を絶対的なものと思い、そこに道理があると信じています。知識を基に、こうあるべきと考えがちです。

とはいえ、そこから確実な答え、解決策は見いだせず、社会に不安が尽きることはなく、争いを繰り返しています。そうした歴史を見れば、いかに過去の経験が生かされていないかが分かります。

心で回るのがこの世の仕組みであり、神がご覧になるのも心です。ささいな心の動きでも、道を欠けば、それが積み重なって、実体を下げていきます。逆に、徳を積む生き方をすれば、実体は引き上げられます。

人生は、積小為大です。教えに触れ、日々実践できるように努めることです。そこに、心の動きは安定し、運命に重なる

生き方ができるようになります。

人の一生だけでなく、時代も運命の力で流れていきます。時代の流れる方向は、歴史から学ぶのではなく、その時々表される神示からつかむのです。それがかめると、環境に順応して、自分の運命の力が発揮できます。

時代の求めに応じてこそ、良さを生かす人生が始まります。身を置く環境で、万物と調和して生きられるのです。すなわち、多くの人々と関わる中で、互いの存在、力を通して支え合い、生きがいを味わう人生となっていきます。

今の社会の大きな変化は、まさに時代の運命の力が働き、起きています。間違えた方向を正そうとしているのです。この流れに乗るには、実体の修正を図ることが必要です。教えを身に付ければ、時代の変化に対応できるようになります。

社会は、さまざまな運命が重なり、補い合いながら、調和に向かって流れています。そうした社会の仕組みを知り、変化に対応できる自分を目指しましょう。